

鎌倉文学館資料集1

長谷川海太郎コレクション

） 概略と往復書簡 ）

## 鎌倉文学館の長谷川海太郎コレクションについて

□はじめに

時代劇のヒーロー丹下左膳の生みの親として知られる林不忘こと長谷川海太郎。彼は、ミステリー、翻訳、現代ものは牧逸馬、アメリカでの体験をもとにした無頼の日本人移民へめりけんじゃっぶんものは谷譲次、そして時代ものは林不忘と、作品により三つのペンネームを使いわけ、大正の終わりから昭和の初めに活躍したマルチな才能を持った作家だった。そして二十五歳の文壇デビューから三十五歳で急逝するまでの十年、そのほとんどを鎌倉で過ごした。

平成二十二年十二月、ご遺族より、三百点を超える資料が寄贈され、翌年二月、四十二点の資料が寄

贈された。これにより、以前にご遺族から寄贈された特別資料百九十四点とあわせ六百点近い資料群となったため、資料の概略と書簡の翻刻を紹介する。

□林不忘・牧逸馬・谷譲次こと長谷川海太郎について

概略の前に、三つのペンネームを持つ長谷川海太郎について振り返りたい。長谷川海太郎は明治三十三年（一九〇〇）、教師の父・清（後に淑夫と改名）と和歌に造詣の深い母・由紀の長男として、新潟の佐渡に生まれた。後に弟が三人と妹一人が生まれ、次弟の湊二郎は画家、三弟の濬はロシア文学者、四弟の四郎は作家となった。海太郎が二歳のとき、父が北海新聞の主筆となり一家で函館へ移る。当時の函館は港町として繁栄し、自由な気風があったという。両親の影響で早くから詩歌に親しみ、また英語

に興味を持ち、港で外国人に話しかけ英語を身につけたという。中学卒業直前、学校で事件がおき、首謀者とみなされ卒業を認められず自主退学。その三年後、二十歳の時、単身アメリカへ渡り、さまざまな職につきながら四年近くアメリカを放浪した。

大正十三年（一九二四）、二十四歳で帰国。雑誌「探偵文芸」の編集を手伝い、翻訳や雑文を担当する。翌年、雑誌「新青年」一月号に谷譲次としてアメリカでの放浪体験を活かし無頼の日本人移民へめりけんじやつぷんを書いた「ヤング東郷」他三篇、牧逸馬として翻訳など三篇を載せ、デビューする。さらに「探偵文芸」三月号に林不忘として江戸の同心を主人公にした「釘抜藤吉捕物覚書」を発表。一人三役の作家として執筆活動をスタートさせた。デビューの翌年の大正十五年（一九二六）、英語サークル

で知り合った香取和子と結婚し、鎌倉の材木座に移り住む。同年、へめりけんじやつぷんものが中央公論社の社長の目にとまり、総合雑誌「中央公論」に作品を発表。以後、活動の中心となった。

昭和二年（一九二七）、二十七歳のとき、東京日日新聞に林不忘「新版大岡政談」を連載。当初は大岡越前が主役だったが、脇役の丹下左膳が人気となり左膳中心の話に変えていったという。翌年、中央公論社特派員として、夫人を伴いヨーロッパへ一年三ヶ月におよぶ取材旅行に出掛けた。旅の空から、その旅行記である谷譲次「踊る地平線」を始め多くの作品を発表する。さらに、「新版大岡政談」が映画化され大ヒットとなり、丹下左膳の人氣が沸騰。人氣作家への階段を一気に駆け上がった。

帰国後も、三つの名前を使い分け、時代、恋愛、

怪奇、探偵小説など様々なジャンルの作品を次々と発表する。その場も「中央公論」「改造」のような総合雑誌から大衆雑誌の「新青年」「キング」そして「婦人公論」「少年倶楽部」と幅広く、新聞や雑誌に作品が載らない月がないほどだった。

昭和八年（一九三三）、三十三歳の若さで全十六巻の全集を出すこととなり、『一人三人全集』と名付けた。全集刊行開始の翌年、鎌倉の雪ノ下に邸宅を建て始める。その家の豪壮さが父の怒りを買って、規模を三分の一に縮小したがそれでも壮大なものだった。当時としては最先端の電気冷蔵庫や冷暖房を完備し、風呂桶は大理石で、秋に建築中の邸宅へ引越しをした。

昭和十年（一九三五）、林不忘「時雨伝八」を雑誌「キング」に、牧逸馬「双心臓」を「報知新聞」

に連載するなど変わらず精力的に作品を発表。しかし、六月二十九日、邸宅の完成を見ることなく三十五歳で急逝した。わずか十年の創作活動で三百近い作品を世に送り出した三人で一人の作家は、鎌倉の妙本寺に眠る。

#### □コレクションの概略

自筆の創作資料は、活動時期が大正末期から昭和初期であったため、ほとんど著者へ原稿が返却されておらず、草稿断片もしくはメモ書となっている。

草稿類は、林不忘「江戸巷塵譜」（昭和五年「婦人公論」連載）「北斎と梅寿」「暴風地帯」「女編笠開花一代女」「白梅紅梅」（昭和十年「主婦之友」連載、未完）、牧逸馬「暁の蠟人」（昭和九年「大阪朝日新聞」連載）「双心臓」（「報知新聞」昭和十年連

載)「七つの海」(昭和六年「東京日日新聞」連載)  
「雨」「この太陽」(昭和五年「東京日日新聞」連載)、  
谷譲次「大陸」(昭和五年「中央公論」連載)「私刑  
物語」(昭和九年「改造」)「黄色い猶太人 マドリ  
ッドの乗馬服」(昭和五年「新青年」)「安重根」(昭  
和六年「中央公論」)「新岩窟王」(昭和九年「日の  
出」連載、未完)などがあり、さらに未発表の原稿  
「ベレメレ(美しき母)」(四百字×七百十枚)と無題  
(四百字×九百二十三枚)がある。創作メモは、絶筆  
といわれる牧逸馬「七時〇三分」(昭和十年「日の  
出」九月号)、林不忘「続大岡政談」(昭和五年「文  
藝倶楽部」連載)「江戸巷塵譜」(昭和五年「婦人公  
論」連載など十数点あり、「江戸巷塵譜」ではマン  
ガのコマ割りのようなメモも見られ、作者の多種多  
彩な創作を探る貴重な資料と思われる。また、作品

の構想が一行で簡潔にしるされているノートがあ  
り、ざつと数百の構想がしるされていて、作品が膨  
大なアイディアのストックに裏打ちされていたこ  
とがわかる。

書簡資料はおよそ百通あり、のちに夫人となる  
香取和子宛の書簡とその返信が多くを占め、ほか  
に豪邸を建てる息子をいさめる父の電報もある。  
また、初出の切り抜きや丹下左膳の映画衣装、ペ  
ン、カメラ、宝石箱、旅行鞆などの愛用品がある。

#### □往復書簡の概略

コレクシヨンの書簡の多くを占める香取和子と  
の往復書簡の何通かは、室謙二氏の著書『踊る地平  
線』(晶文社/昭和六十年(一九八五))で一部が紹介  
されているが、全文は未公表で、プライベートをあ

まり語らなかつた作家の内面を知る貴重な資料である。『踊る地平線』と往復書簡から二人の愛の軌跡を辿ってみることにする。大正十三年（一九二四）、二十四歳の長谷川海太郎が帰国し、雑誌社で働きはじめ。十四年（一九二五）、作家デビューするが、体調を崩し、夏から神奈川の七沢温泉で療養する。そこで青山女学院英文専門科を出た二十九歳の香取和子と出会い激しい恋に落ちた。二人は九月末まで七沢温泉に逗留し、結婚を約束。十月十三日に海太郎が両親に結婚の承諾を得に函館へ向かうこと、二十五日から海太郎の療養を兼ね大島に行くことを決める。そして、十月一日、海太郎は新宿・追分の下宿へ、和子は千葉・市川の実家へ戻った。

翌日の十月二日、二人は初めて手紙を出し合い、十月九日、二人は東京で再会、三越で買い物を楽しむ

む。十三日、計画どおり海太郎は療養と結婚の承諾を得るため大宮から函館へ向かう。二人は出発まで大宮デートを満喫。海太郎は十四日から二十一日まで函館に滞在し、両親から結婚の承諾を得て、二十日に帰京した。すぐに二人は再会を果たすが、その帰途、和子は体調を崩し大島行き延期を依頼する電報を打つ。取り乱す海太郎。そこへ詳細を説明する和子からの手紙が届き安堵する。二十七日、二人は無事、大島へ向かった。十月二日から月末まで、多いときは日に三通の手紙を認め、絆を強くした二人は、翌年一月に結婚した。

この往復書簡は、海太郎から和子へ封書二十一通、はがき二通、電報二通が、和子から海太郎へ封書十  
四通、封緘はがき一通、電報四通が現存する。

## 長谷川海太郎と香取和子の往復書簡

現存する大正十四年（一九二五）十月の往復書簡全四十四通を翻刻で紹介する。改行は原資料のとおりとし、編集の関係で文中で改行しなければならぬ場合は二字下げとした。また漢字は新字に修訂した。なお、携帯電話やメールというパーソナルで即時性の高い通信手段のない時代のため、起筆順では書簡の内容が繋がらないため、長谷川海太郎が書いて読んだと思われる順に紹介する。

1 長谷川海太郎↓香取和子／10月2日 朝

和子 十四・十・二・朝

お早やう。よく寝た？ 抱っこ抱っこ

されたくて 夜なかや朝の眼ざめにしくしく

泣かなかつた？ 今日であと九日！

あの触感を一晚感じながら それでも

俺はよく眠つたとみえる。今朝は気分

もいゝ。今一人ぼつちの朝食を済ましたところだ。これから神谷へ行き、松坂屋あたりで帯を買って神田へまはり、小石川へ出て森下に会ひ、それから柏木へ行く。おかずさんの速達も出す。お前、みいみいのおみや忘れなかつた？ では夕方まで。

海

2 長谷川海太郎↓香取和子／10月2日 夕

十四、十、二日夕。 海太郎

今日は雨具なしに雨に降られて散々

だった。それでとうとう小川のところ

へは行けなかつた。明朝早々行くか

ら心配するな。今日済した用は、

一、神谷でセルを買って頼んだ。

黒いところに細い縞がある。あれで

いゝだらう。身丈けを五分長くし

てをいた。六日に届くといふ。

右全部で十六円五十銭也。

一、松屋で金紗の兵児帯、黒いの、金十四円五十銭。

一、神田で虎屋の帽子、三円五十銭。

一、NIKKIBIのくすりも手に入れた。

一、おかずへの速達たしかに出した。

それから羽太博士の病院へ行つて

血清を取つて貰つた。六、七日に検

鏡の結果が判る。勿論陰性だらう。

博文館に森下、神部に会つた。

森下には明日又よく会談する。そ

の内詳しく知らせるが、原稿のこ

とは安心してゐるがいゝ。神部はよう

かんを貰つて嬉んでゐた。

今、夕七時だ。これから近所の眼

鏡屋へ行く。和子、俺はまるで白

痴のやうに生死の判然しない日を送

つてゐる。察して呉れ。又書く。

3 長谷川海太郎↓香取和子／10月2日 夜

和子——。 14・10・2夜

お前へ手紙を書くことによつて俺は辛う

じて呼吸をつづけてゐるやうな気が

する。かうやつてお前を呼びかけてゐ

るあひだゝ俺はいかにも生きてゐる

と感ずる。その状態がもう少し続い

たら、何ういふことになるか俺自身責

任は持てない。何といつてもあと八日

ある。早くこの八日がたつてくれない

と俺はほんとに狂気になるかも知れない。

4 長谷川海太郎↓香取和子／10月2日 夜〔推定〕

離れてみて一層お前の可愛さが

——一つ一つの部分が一つ一つの場合に

形をとつて——眼の前にかぶ。



いつも顔を見あつてゐて馴れすぎ  
てけんか——の真似——をするな  
んて何といふぜいたくだらう。

今度こそは必ずもつともつと大き  
く深く俺はお前を抱きしめる

ことが出来るであらうことを今  
からお約束する。お前はほんと

うに安心して心ゆくまで甘へて見  
るがいゝ。その時始めて二人は二

人の立場に立つたといふものだ。早く  
さうなりたい。さうなつて考へたい。

下宿では部屋が變つてゐた。一人  
では御飯も咽喉へ通らない。俺は

全く和子なしでは半分なのだ。下  
宿でも俺が全然別人のやうに

見えるとみえて主人女将さか  
んにへいへいしてゐる。こわいらしい。

真面目しんめんもくに自分を直視し行  
住座臥をいやしくしてゐないから

充分の信と愛とを持つてゐてく

れ。これは単に in return だけとし

てもまさに和子のつとめである

思ふ。かういふことを言ひ切り得る

までに俺は今明らかに俺の強さを

感ずる。お前も感ずるであらう。

ふと気味がわるい程如実にお前

のにほひが鼻を打つことがある。

その時の心臓の大変さ——その

Feeling, moving and passion を

ぢつと押へて俺は自分の心を

練り固めてゐる。恋は人を作つく

る、そんなことをししみじみ思ふ。

もう十時だからよして寝る。

今夜は母へも長い手紙を書いた。

何と返事をよこさうとそれは問

題ではないが、何んなに喜んで来

るかそれを待つてゐる。明日は  
耳鼻医や小川へ行く。眼鏡は先  
刻行つて好いのを二つ修理させた。  
デエリイ・ライト聖書を待つ。呉々  
も健康に留意してくれ。 海

5 香取和子↓長谷川海太郎／10月2日 朝

「さよなら」をして急いで  
停留場にまゐりましたら  
丁度自動車がいま出ると  
いふところ、七時半に押上に  
つきました 電車も都合よく  
五分ばかり待つてゐるうちに  
市川行きが出ましたので  
おもつてゐたよりもずつと早く  
丁度八時にうちにつきました  
うちではミヤ／＼もヤン／＼も  
もうとつくに寝てしまつて

がっかりしました。兄は留守  
姉は茶の間でお仕事  
お母さんは髪を結つてゐる  
ところでしたが只今といふ  
私のこゑにびつくりして大喜び  
でした 七沢のお話、過中の  
こと私のみない間の出来事  
など話し合つて丁度十時に  
お床の中に入りました 疲れて／＼  
手や足がぬけてしまひさう  
で何時の間にかねむつて  
しまいましたけど 夢ばかり  
見つゞけで今朝目がさめ  
た時にはしばらくの間 何が  
ほんとうで何が夢なのか  
ごちゃ／＼になつてしまひました  
が だん／＼あたまがはつきりして来  
て きのふあなたとああしてお  
わかれして ゆうべはひとり

ぼつちで眠つてゐたのだと  
気がついた時 たまらなく  
寂しくなつてしまひました。

いまは朝の九時、みやくは  
学校に出かけ 朝のお  
かたづけももう済んで

あたりがやつと静かになり  
ましたから早速これを書き  
はじめました けふもさつきから

雨が降りはじめなかく  
やみさうもありません  
あなたはどうしてゐらつしや

るでせう もうお出かけに  
なつたでせうか  
お目にかゝれる日が早くく

くるとようございます  
さつき一寸お話のついでに  
お母さんに「いろくお話し  
したいことがありますのよ」と

前をきだけをしておき  
ました 二人きりになるよい  
をりをこしらへて早くお話

するつもりでをります  
これから郵便局に行つて  
これを出して かえりにあなたへ

お送りするものを呉服屋に  
行つてかつてまゐります  
どうぞ決して御無理を

なすつて下さいますな  
ではまたすぐ書きます  
書き度い事がどつさちありさうで

筆をもつと何も書けなくなつてしまいました  
二日朝

6 長谷川海太郎↓香取和子／10月3日 朝

大正十四年十月三日 朝  
お早よう。今八時 お前の手紙が

着いた。何度も何度も読み返した。

あの晩は思つたより早く着いてよ

かつたね。母上様もさぞ喜びの

ことだつたらう。みやみやの絵具を

買つて行かなかつたらうと今でも気になつて

ゐる。玄関へ這入つて『只今』と言

つたであらうお前の声と様子が僕

にはつきり耳に聞えるし眼にも見える。

今日は三日、あと八日ある。あまり夢を

見ないやうにして心身を休ませてくれ。

かう書いてゐる間も僕は自分が

からつぼのやうな気がする。早く会

ひたい。今願ふのはそれだけだ。

これから柏木の小川へ行く。帰りに

耳鼻科へよる。丸ビルは明日のこと。

あ、それからあの栄養剤は飲んで

でゐるだらうね——ではまた。

和子へ

海

7 香取和子↓長谷川海太郎／10月2日 夕(推定)

只今(四時すぎ)荷物がとどき

ました 割合に早くつきましたのね

あなたの方は東京ですから無論

もう朝のうちにでもついてゐることゝ

おもひます。荷物をとくながら

これをこしらへた七沢のあのお部屋を

思ひ出して何とも云はれない感じ

が致しました。あなた<sup>が</sup>まぎく

とうつつて来<sup>マ</sup>て胸が痛くなつて

まゐりました、

おくすりはすつかりしめつて出て来

ましたから今日お火鉢のそばでかわ

かしてをります。

けふは かけぶとんのうらがへしをし

ました。かたいきれなのでゆび先が

少しいたくなりしました、もうおし  
まひにしてけふは早くやすみます。  
この前の手紙に書きましたかしら、私  
ゆうべねずみに右の足ゆびを二本  
かまれましたの、よく眠つてみましたのに  
すつかり目をさまさされて、しばらく  
ずき／＼いたみましたがもう今は  
すつかりよくなりました、けふから  
おばあちゃんともいみいの御部屋へ  
行つて居やうと思つてゐます、気味  
がわるくなつてしまひましたから。  
兄が大きわざして今夜はねずみとり  
をかけてかたきうちをしてやると  
云つてをります。一寸のひまを見て  
あなたのあみ物もしてをります、出来るだけ  
いろ／＼の支度をして行き度いとおもつて。  
あなたはいま御うちかしら。  
ひとりぼつちになつてゐるとしみ／＼と  
あなたの尊さがわかつて来ていろ／＼

後悔をしてをります。

もう夕方のお掃除がはじまりました

からこれでやめておきます。

三日夕

8 長谷川海太郎↓香取和子／10月3日 午後

大正十四・十・三日午後

今日柏木に小川氏を訪ぬ。一先づ形式と

して入会し会員証を受け然る後要談

に及ぶ。警視庁の認可を経たる相談所に

して小川氏の人物は実に朴訥そのものの如き

基督教信者、その言ふところは多く信教

するに足ると敢て思惟す。安んぜよ。

■妻のことゝして余は話を切り出したるに、氏は  
余の私生活なぞに何らの興味なきものの如

く、余の言葉を奪

ふやうにして直ちに問題の

核心に触れ、その方法の説明に着手したり。

思ふに余の緊張せる真剣より即して、

何らの疑念をも感知せざるもの如かりしも

小川氏自身真面目そのものにして自己

の使命として何らの逡巡なくその科学的

實際法に言及するを得るもの如く見受

けられたるは近頃余の欣快とするところなり。

■氏曰く。方法を知る者にとつてはカントロウ  
ル程事実容易なるものはなく、即ち

別紙列記の順に従つて一々利実得失を

説明するに——と実物を以てその方

法を示されしも、今、大別して之を使ふるに、

一、個々の場合の前後に施す手当て。

イ、子宮頸。(事前)

ロ、洗滌法。(事後)

ハ、挿入剤(事前)

ニ、子宮栓(事前)

二、永久若しくは半永久的方法

イ、Galalen puin

ロ、外科大手術

となり、一の凡てはその煩雑なると、去て

怠りがちになるところより案外目的を達

せざることあり、且つ、その確実性も二の

イに比して遠く及ばざることは実験に徴

して明らかなりと言ふ。二ノロの如きは問

題にあらずとして、こゝに最も信頼し得

て、個々の場合にうるさくなく、しかも人体

に無害なる適法としては、二ノイなる——

即ち別紙印刷物の○印の七——ピンの方

法にして、小川氏もそれを極力推奨され、そ

のシユアなる点は自分の経験よりして断

言し得とのことなりき。

■先づこの方法を採用し、且つ膈内の衛生

のため五十倍硼酸水を以つて時々洗滌する

が如くせば実に完璧なりといふ。通経

の薬は、その器具等も、最も効力ある

といふを一見したり。然れ共、ピンの方法を

採用するとせば、他の凡ての挿入、洗滌等を姑息視して、何らの恐れ、何らの害なくその目的を達するを得ることは前述の如し。如何？熟考あれ。

■ピンの方法は余の思ふところ、最も適当と信ず。その施箇の如き、わづかに一分間のことにして何らの痛みを感じることなく、取り付くる時も、その後も全く不感なりといふ。

■余自身なし得ると言ふも、勿論斯道の人に一任するに如くはなし。しかし容易なるものならん。小川氏方に遂行あらば、ほんの一分間にて取り付けらると。代金七円。勿論先方は専門家なれば、この際その専門家の茶飯事の一つとして——お前と

しては一大勇猛心を出し——その施行を受けては如何。余としても他人にお前を見せるは心外の至りなるも、たつた一時のこと、思ひ切つて出て来る氣になれ。

■とにかく、この事は余一人にては何とも決め難し。ピン方法を受くる如何に關らず、一先づ面談の上よく話し合ふ必要あり。柏木は浄水場の直ぐ前なり。宝田氏へ寄る用もあらん。この手

紙着の次の朝、出京せよ。その旨の來電を待つ。八時より九時まで上野省駅の改札口にて待つ。先づ前以て電報せよ。

■一応話してみて、若しピンを受くるなり、又は直接小川氏に会はんと思はゞ直ちに省電によりて新宿に向はん。余一人の考へとしてはピンの方法——小川氏もこれを奨む——を探らんと思ふも、お前には又考へもあらん。凡て面接相談によりて決せん。今、三日午後。明四日電報を期待す。来る時、別紙類持参せよ。

和子へ

海

さつき都合よくみんな出はらつて

母と二人きりになりましたから例のことを

早速母にきり出しました。長い時間

かかつて何もかもすつかりお話ししました。

母は私の予想した何倍も何倍も

よろこんでをります。そしてどんなにか

あなたに感謝をしてをります

ついでに大島行きも具合よく話しましたら

よろこんでゆるしてくれました。帰つた

ばかりでまたすぐ十一日に行くといふのも

あんまり母を失望させるとおもひ

ましたから いづれ出立の日はお友だち

からおしらせがある筈になつてゐるが

案外早くなるかもしれないから

もう早速支度にとりかかり度い

とだけ云つておきました。二三日

うちに、御友だちからおしらせが来

たことにしてはつきり云ふつもりでをります。

母との話は何れお目にかかつてから

くわしく申上げます。私も心がかかるく

明るくなつて いままでの「幸福」が急に

百倍も——それよりもつとく大きく

なつたやうな気がしてをります。

けふは朝から一生懸命あなたの

お仕事を致しました、明日までに

すつかりし上げてしまふつもりでをります。

ミヤミヤ ヤンヤン 久しぶりでめづらしい

とみえて五分をき位にやつて来て

いろくくの奇問を著して「オネエチヤン」

を困らせてをります。

三日夕方

もう外がくらくらなくなつて出られませんか

明日投函します。



10 長谷川海太郎↓香取和子／10月3日 夜

大正十四・十・三日・夜。 海。

原稿をいろいろ引受けた。仲々

忙しい。島へ行くまでに一段落つ

けて終ひたいと目下大童の様だ。

今もう十時すぎ、今日

は柏木へ行つて半日以上かゝつた。

何しろ小川氏の好意と、方法の

簡易と適確さが判つて、こんな

安心したことはない。それに近々

会へることゝ思ふ。たのしみにして

もう今夜は寝る。お前もお

やすみ。千葉の方角へ俺はお

じぎをしてねる。和子へ――。

11 香取和子↓長谷川海太郎／10月4日 朝(推定)

いま朝の四時がうつたところ、

小さい人たちが目をさますとやか

ましくつて何も出来なくなりますから

今日は早くから起きて ゆふべの

お仕事の残りをして 小包を

すつかりこしらへ上げました。御飯が

すんでから出しにまゐります。御約束の

聖書ともう一冊のをいれておき

ました。お菓子はこれなら少しの間は

もつさうですから をいしくないかも

しれません少々お送りいたします

きのふ郵便局のかえりに買つておき

ました。一度に召し上がつてはいやよ。

けふは おふとんの綿入れをボツく

はじめるつもり。

十一日は金曜日 来週のけふに  
なりますのね

いま郵便局からかへつて来てぼんやり  
玄関にこしかけて外をみてみました  
ところへあなたからの手紙がまゐり  
ました。どんな心持ちでそれ  
私が拝見しましたか あなたは  
きつとわかつて下さると存じます。  
生きながら死んでゐるやうな死に  
ながら生きてゐるやうな こんな心持ちが  
長くついたら私はどうなつてし  
まふでせう、かうして書いてゐても  
頭がくらくくして何を書いてゐるのか  
自分でもわからなくなつてしまします。  
きのふ九月のこよみと見まちがへて  
をかしな事を申しましたのね。十一日は  
来週のけふで日曜日ですのね、  
ひと晩のうちに幾日も日がたつて一足とびに

早く十一日になるやうな不思議は  
ないものかとつく／＼考へます。

みやみやみのおみやげは随分困りました。  
市川でのたつた一軒の文房具やへ  
よつてきいてみましたら適当なのが  
一つもないんですもの、 何とか  
申しわけをしてあとで買つてくることに  
しやうとおもひましたけど何にも  
もつて行かないのも可哀さうだと  
おもつてお菓子例によつてやんやん  
とおそろひに御砂糖でこしらへた  
ね、このお菓子がガラスの箱に入つて  
ゐるのを一つづゝ買つてまゐりましたの、  
翌朝目をさましてからすぐ出して  
やりましたら二人とも大よろこび、出したり  
入れたり そのうちだん／＼かぢつて  
また／＼く間に食べてしまひ 今は  
箱だけおもちや箱の上にくらがつて

ゐます。絵具はおねえちゃんの  
かえりがあんまりをそかつたのでいゝのを  
御父様に買つて頂いたのと云つてなかく  
大仕掛な立派なのをもつてゐます。  
かえつてなくなつてよう御座いました。  
が、ねこだけでは一寸物足りない  
みえて「電車ごっこ」をするおもちやを  
今度東京で買つて頂戴としきりに  
云つてをります。

けふはいゝお天気、あなたは今頃  
何処で何をしてゐらしやるでせうか、  
柏木かもしれないなどゝも考へてをります。  
いろゝ御買物が済んで安心いたしました。  
それからおくすりのブロンチン（せきどめの薬）  
は粉末でなくて錠剤のを買つて  
ゐらして頂戴ね  
随分お忙しいでせう、おからだは  
大丈夫？ 夜よくおやすみになれて？

これからお仕事をはじめます  
あなたの事を考へながら  
さよなら  
三日昼

13 香取和子↓長谷川海太郎（電報）／10月4日  
午後0時34分

アスアサユクカズコ

14 長谷川海太郎↓香取和子／10月5日 午後

五日・午後  
別便詳報の如く、この問題は俺一人  
では何とも決められない。ともかく  
出て来い。そして必要上、小川  
氏に会ふことゝしよう。  
小川は余と対談中、一つの笑ひす

ら洩らさなかつた程、真面目な人物らしい。

来る時、この印刷物を持参す

るがいゝ。これによつて相談するとうしよう。

海太郎

和子へ

15 長谷川海太郎↓香取和子／10月7日 午後

十月七日午後。

昨夜の予報には雨といふ字はなかつたが

今朝あのやうな降りだつたから上野へ

出迎へ中止した。お前も来なかつたらうと思ふ。

この次、何日会へるか知らせて呉れ。

一、のどの工合ひは大分いゝから安心するがいゝ。

一、みやみやへの弁当箱と箸、何うなつた？

一、あのあとは其の後何うだ？ 痛むやうな

ことは万々なからうと思ふが心配で心

配でしやうがない。

一、俺はもうお前なしでは生きては行けない。原

稿も何も手に付かない。ただじつとして十

四日を待つてゐる。

\*ジミイから手紙が来て今年中は上京しな

いさうだ。下宿からは留守の席料として五

十円も請求されてゐる。つくづくいやになる。

島へ行く時には荷物全部函館へ送り返し

て終ふ。島から帰つても俺はお前と別れる気

はないから俺の古い物になぞ要はない。昨日、

東京検鏡院から通知があつて、俺の血液は純粹

だといふ。何らの病気がないといふ。安心であら

う。

和子へ

海。

\*次弟で後に画家となつた長谷川湊二郎のニックネーム。  
命名は海太郎。

16 長谷川海太郎↓香取和子／10月7日 夜

七日夜。

海太郎

お前はもう寝たらうと思ふ。

今、新年号へ出す滑稽ものの

原稿を仕上げた。面白くもないが

これで煙を立てるとなれば書か

ざるを得ない。早くお前と一しよ

にゐて筆を進ませたいと思ふ。

あと一週間ある。その間に何日

会へるか知らせてくれ。予定通

り松本へ北海道行きを言つて

やらうと思ふ。俺も寝る。お休み。

二伸。あのあとが何うも心配になる。

決して痛んでゐるやうなことはある

まいと思ふが場処が場処だけに

気になる。あんまり真剣に考へ

すぎて少しやりすぎたやうにも思

ふがあとさへ何ともなければ却つて

安心だ。何うせ性欲は愛の前に

は遊戯の一つに過ぎないと俺は思

ふ。この上は何んなことがあつても

小さい侵入者を許さないことがお前

のあの苦しみへ対しても俺たちの義務だ。

17 長谷川海太郎↓香取和子／10月8日 朝

大正十四・十・八日 海太郎

和子、いまお前のはうへお早ようをしたと

ころ——八日の朝だ。もうあと六日しか

ない。すゝまぬ筆を叱りながら俺は原

稿を書いてゐる。お前はあまり気

をつめて仕事をして健康を害したりしない

でくれ。何よりもそれが心配だ。

今日も雨、この分では当分会へさうも

ないが行く前にもう一度あつて最後の手筈

を決めたいやうにも思ふ。いちらしい

お前の姿を思ひ出すにつけ、俺はお前の言

つたとほり天蓋孤独の孤児になりたい

と思ふ。それが唯一の愛の道だらう！

18 香取和子↓長谷川海太郎（電報）／10月8日

午後5時10分

アメフツテモアスカナラズユク

19 長谷川海太郎↓香取和子／10月9日 夜

九日夜、

今夜はわりに早く帰れたらう。

一人になつてぼんやりして今下宿

へ帰つて来た。早速プロチン

を飲んだ。大分いゝ。寝る

時にアスピリンを服用する。

今日買ったものは皆好くてうれ

しい。今、包みをほどいてすつ

かりバスケットへ仕舞つた。は

だてからベイコンと混布が

届いてゐた。一二日中に吉報  
があるやうな予感がする。

必ず万事もまく行くやう

にするから決してくよくよ心配

するな。祖父江へも葉書

を書いた。

俺も健康の恢復を第一の仕

事にするからお前も無理だけ

はしないでくれ。別れた瞬間

に直ぐ会ひたくなる。早く一しよ

に起居するやうになりたい。天地

の間に望といふのはこの一つ。

和子

海

20 香取和子↓長谷川海太郎／10月10日

青木さんにおことわりの手紙を

出さうとおもつてをりましたら

只今こんな御手紙がまゐりました。早速

「御手紙拝見して一同相談の上  
八丈島の方は御云々つけの通り  
今度は見合はせる事にしたから」  
といふ御返事を書きました。

こちらからおことわりする前に  
むかふからこんな云つて来て  
かへつて都合がようございました。  
やつぱり大島がよさうですね。  
けふみんなに十五日か廿五日頃に  
あちらに行くとはつきり申しました。  
こつちが毎日こんな御天気だから  
早く出かけた方がいゝかもしれない  
などゝ母も兄も申してをります。

函館からまだ御手紙がまゐり  
ませんの？　どうかして十五日に  
行かれるといゝのですけど。私そんなに  
いつまでも我慢なんかしてゐられ  
さうもなくなりましたの。  
今日もまた雨、あなたは どうして

みらつしやるでせう。昨夜からちやんと  
おくすりをのんでいらしつて？　本当に  
心配になつてたまりません。  
私はけふもまたおふとんの綿を入れて  
ます。

昨夜買つて頂いたもの、うれしくつて  
うれしくつてけさは早く目をさまして  
御床の中でひろげてみました  
時々思ひ出しては御仕事をしながら  
そつと自分の行李をあけてのぞいて  
みてをります。

これからすぐ出してまゐります

さよなら

十日午前十一時半

(添付書簡)

先夕御失礼いたしました　久々にてお相目見え  
いたしお話したい事山程有りながらあはた  
だしくおわかれして残念でした　御元気で

青山時代と少しもお変りなき御姿に接し  
おうらやましく存じました

さてさつそく御手紙さし上げねばなりませぬ  
ところをつひ子供の病気に取りまぎれおく  
れてしまつてすみません

主人とも色々話合ひ三年前の八丈生活など  
思ひうかべあれやこれやと思出されて来り  
ました 御二人ともお若かくていらつしやる御

様子

につきましても八丈はあまり不便ではな  
からふかと申ますの

御病気が御病気ですから土地としては申  
分ないのですが何分先日もお話申上げた  
通り一旦風雨にとざゝれゝばお米さへ

不自由なのですから 万事おさつし下される  
と思ひます かと申して丈夫で暮すぶん  
には何とて日常の事には事かゝぬの

ですが医師も島中にたつた一人きり  
でもちろん東京の様に苦しく他医者と

のきやうそもなく呑気にしてゐられるの  
ですからいざと云ふ場合にたよりなさを  
感ずる事はもちろんの事十分の御手あても  
かなふまいと存じます

そのへの事よく御考えの上又医者  
とも御相談の上でないといかゞかと存じます  
それに又島民は一時あまり多く病人が行つた  
ためにかんせんしたりしたため今では肺と云へ

ども

たゞむやみにこわがる様ですとかそれであまり  
あきらかに病名など云はずに神経衰弱位

にしてしばらくひまが出来たので遊びにきた  
とか申しておく方がよろしいでせうと思ひ  
ます 島は先日も申しました通り病

気にはしごくよろしいのですがたゞ不便と  
若い二人にはあまりにさびしくはないでせうか  
もし

万一の場合に十分な医者がゐない事急  
に帰国したくも船や天候のため自由



にゆかぬ事などがきづかはれます 私の考へではかへつて伊豆位の方がよろしくはないでせうか なにしる陸上ですと東京へ出るにもわりに自由ですから。

先日はあまり急な事で島のよい事ばかり申上げてしまひましたからもしあちらにいらしてあまりがつかりなさつてもいけますまひと思ひますのでこれ等の事を申上げてよく／＼御考えになつてさつそく

又御返事をいたゞきたう存じます

それで御返事がある迄は八丈の方に

は手紙を出す事ひかえておきます

から又御意向ではさつそく菊地さんの方に

おたのみしてさし上げますから

ではいそぎこれで失礼いたします

此度はお遊びにぜひくおいで下さいませ

お待ちしております

さよなら

たき拝

かず子様

21 長谷川海太郎↓香取和子（電報）／10月10日

午前11時35分

アスイインカイアリオイデタノム

22 香取和子↓長谷川海太郎／10月10日 夜（推定）

（電報をうつて下さる時には委員会よりクラス会の方にして頂戴）

今夜は丁度八時五分すぎにつきました、

汗びつしよりになつて来ましたから

早速着物をきかへに自分の部屋に

入つてゐた間に御母さんがすつかり

御夕飯はまだだと思ひ込んで御飯の

支度をして下すつたので仕方なく

少し食べました。

みやみやもヤンヤンももうとつくにねんね

してしまひましたが御弁当箱と

御湯呑み——それからあの御菓子とは

みなが大よろこび　かたの荷物を

下した気がしました。あなたが一緒に

みんな見て下すつたのだと話せたらなほ

うれしかったのですけど——

あした子供たちがをきてどんなに

よろこぶかと今から楽しんでをります。今

疲れたからと云つてもう床の中に

入りこれを書いてをります、丁度十時。

かへりに買つて頂いた前掛と帯上げと

だてまきと三越の帯どめを御床の中

にもつて来て幾度も／＼今ながめ

ました、今までに、こんなに気に入つた

ものを買つた事はありませんけど

あなたに買つて頂いたのだとおもふと

尚更うれしくつてたまりません、いつまでも

いつまでも大事にしてとつておきます。

あなたはもうとつくについてゐらつしや

いますわね　随分お疲れになつた

でせう　かぜを引いてゐらつしやる

ところを。どうぞプロチンとアスピリンを

お忘れにならないやうにね。あなたばつかり

の御体ぢやあないんですもの　本当に

用心して頂戴ね。

十五日に行かれるのでせうか。どうなるん

でせう？　とにかく十三日はお目に

かゝります。それまで御手紙を沢山

頂戴。(あの御手紙が今夜かへり

ましたら二本とゞいてをりました。)

私はおもつたほど疲れてゐませんけど

明日はまたいろ／＼編かなければ

なりませんから今夜はこれでやすみます。

ではまた明日——。

23　長谷川海太郎↓香取和子／10月14日　午後

帰途無一文で困つたらう。俺は一円余り残つた。

十月十四日 午後 海太郎

大宮で別れて以来まる一日、まるで空つぼの人間のやうにぼんやりして先刻、十四日正午うちへ着いた。入浴して今まで母とお前のことを話しあふ。

思つた以上喜であるから何も心配することはない。格別に弁舌を振ふ余地もない程だつた。いろいろくわしく話するにつれて母は深く深くお前に感謝してゐる。父とも種々具体的問題を考へてゐたらしいからこの点で一層の話し合ひを必要とする。

大島行きも了解を得た。予定通り

二十一日発、二十二日午後四時半上野へ行く。来た日からも帰る日待つてゐる。吉川といふ医者によくみて貰ひ、懸命に健康の恢復を計るつもりである。

明日早速十包二個送る。今頃

はもう帯二つ、巴里の園等を手に入れ

たことゝ思ふ。以下後便。

24 長谷川海太郎↓香取和子／10月15日

和子へ 十四年十月十五、 海太郎

お前のところへ筋子を送るといふので母は昨夜から騒いでゐる。大きな樽詰めなので空罐へ移して今發送する。これは父が關係してゐる物産会社の漁場、露領カムチヤツカのペテロパウロスクで土人が作る

もので、当地でも珍中の珍のよし、大根おろし又は細く

刻んだ玉ねぎ等をかけて食べると格別の風味があるとのことである。少して何だけれどみんなであがつてくれ。鮭は明日になるだらう。今電話をかけて催促してゐるけれど、倉庫からまだ出てゐないといふ。子供の頃の写真二葉を入れて新聞紙

を送るから、これを例の『三越』といふことに拵へて

おいてくれ。鮭は多分鉄道便で明日早々送

らせる。甘い方は千島の、塩の利いた方のは同じく露西亜ものとのこと、相当においしいことゝ信ずる。

昨日、帰つたばかりでもう嫌になつた。が、吉

川医師も来ることであり、養生傍々、予定通

り廿一日までは滞在する。廿五日に大島へ行

くまで、大車輪で体力の増進を計らう。痩せ

て来たといつて一同驚いてゐる。七沢時代のこと、

ことに真新しい大宮東山の記憶、もう少しだ、辛棒し

て

待つてゐてくれ。こゝは要するに父の家、これら

の人々は一番近い他人、たゞ追分路よりは食

物もいゝし、手当ても届くから、大島へ行くまで

の養生をするつもりで暫くゐる。お前もその気

で一寸俺をこゝへ預けたと思つてゐてくれ。

父母とはよく了解がついた。なほ一層よく

話し合つて具体案に這入るつもり、帰る

までにはすつかり手筈を決めておく。彼らは俺の

結婚を少しも急いでゐない。急いであると思つ

たのは、俺が急いであるのだつた。俺が一人淋しがつて

——追分館でお前のことを考へて——ヒステリ

ックにあんなふうにならぬに今更らしく急ぐやうなこ

とを言つたのだつたが、根本の計画、方針には

少しの変動もなく、当初の考へ通り着々進

めて行くことは、あとで改めて大宮で話し合つ

た如く勿論のことなのである。この頃の俺は一人

ではなく半分なのだ。半分では正當にものを

考へることも出来ないぢやないか。何々。

が、今では何だか一人でも二人であるといふ信

念が強くなりつある。つまり、それ程お前

の实在を傍近く意識するといふのだ。

と、こゝまで書いて来たなら鮭が届いたといふ。

で、二匹、早速鉄道便で送る。柔い方は

甘いので千島産、これは当地でも走りもので非

常に美味しい筈だ。平べつたい固いのはからい

方で、こいつは露領出来である。筋子は

先刻小包郵便で送った。

森下から金を受取つて帯や反物を買ったことゝ信ずる。では、これから俺自身で鉄道便を出しに行く。さよなら。

25 長谷川海太郎↓香取和子（葉書）／10月15日

其の後は御無沙汰。毎日何うしてゐますか。今日小包二つ出しました。カムチヤツカ産の鮭と露西亜漬けといふ鮭の子です。皆さまでおあがり下さい。

今三越が出張して陳列即売をしてみますで母を連れ出して似合ひさうなのを見立てゝ貰ひました。一しよに送りますから詰らないものですがお受け取り下さい。当地は今秋晴れの好天気続きです。其地もいゝ氣候でせう。追々冬に向ひます。お身体お大事に。さようなら。

26 長谷川海太郎↓香取和子／10月16日 朝

十四、十、十六日朝、海太郎

帰つた日、十四日二日母と話し合つて完全なる了解を得、予め父の耳へ入れておいて貰つて、昨十五日夜

深更に至るまで父母と談じた。

二人とも有頂天によるこんである。

年齢の点なぞも元より問題にし

てゐない。たゞさういふ方が何うして

海太郎好きとさういふ心持になつたか、

それが解らないといふことであつた。こ

ゝで一つ俺は大いに自負とそれから二

人の間の心持を話してやつた。二人さへ

よければ、これ以上の満足はないといふ

のが父母の持論なので、頭から大

賛成であるとともに、俺をこんなに

変へてくれたお前へ対して万腔の

感謝を向けると同時に、一つの奇蹟

のやうにまさにおどろいてゐる。

詳しいことは面談するが、事務

としての結婚に際しては、父上京

の上、田端の兄上様に膝詰談判

に及ぶことは勿論、あらゆる方法

をつくして来夏までには纏め、そ

のためには来春四月頃に話を

切り出さうといふことになつた。つま

り吾々の考へ通りなのである。

父母共に安心し切り、この話は昨

夜で万事解決したわけであるが、

父は二人さへ愛しあつてゐるならそ

れが凡てを決定して余りあると言ふ

ものの、母は女だけに今二つのことを

気にかけてゐるらしい。その一つは、今ま

での降るやうな縁談を排して何うして

一介の書生のところへ来たいと思ふ

やうになつたかといふその真意を突

つ込んで知りたいといふのと、もう一つは  
俺の実家が父の誠意と健全な  
る思想とを以てだけ世に処する無

資産の家であり、物質的に

まことに豊かでないといふことをそ

の方かたによく判つて戴きたいといふ

のである。第一の掛念は俺の話によ

つて母にもよく得心が往つたこと

と思ふ。第2のことはお前にも

理解があると信ずる。

たゞ父母も俺も今は俺の健

康恢復だけを一つの仕事にしてゐ

る。近日中に吉川氏も来るし、それ

によくみてもらつて、廿一日には必

ずこゝを套ただち、廿二日の夕方に

はゆつくり対談出来る。その時

を狂気のやうに待つてゐる。

和子へ

27 香取和子↓長谷川海太郎／10月13日 夜(推定)

上野に二時四十分、うちに只今(四時)  
無事につきました。留守中何

事も起らずにいつものやうに何から何までうまく  
自然になつてをります。御安心下さい。

「伊東みつ子」の御手紙が一つ来てをりました。

あなたの汽車は今どこを走つてゐる  
でせう。三等でさぞお疲れでせうと

心配でたまりません。私はまだ

ボンヤリとして、この二三日のことがたゞ夢の  
やうにしかおもはれません。たゞ一分

一秒も休みなしにあなたの事ばかり

考へてゐます。どうぞ御からだ第一にね。

そして二十二日には御元気でおかへりに  
なつて頂戴。そればかり待つてをります。

また御天気が変になつてまゐりました。  
明日は雨ですつて 天気予報は。

でも大抵のことなら明日博文館に

出かけます。何れくわしく申し上げます。

くらくならないうちに出して来ます

では さよなら

\*海太郎から和子への手紙は、ほとんど女性の名前で発  
信されている。

28 長谷川海太郎↓香取和子／10月16日 夜

和子へ

海太郎

十月十六日夜

一、式のこと、結納のこと、衣服のこと、母は早くもこ

んな心配を始めた。微笑を以て俺はそれ

を眺めてゐる。これら実際問題で母の考

へをお前へ伝へる使命を、俺は今度背

負されて帰ることだらう。

一、田端の兄貴がうまく承服するかしら、勿

論万善の策は施すが、もし断られたら何うしたものであらう、何とかしてその長兄を納得させなくては——といふのが父の唯一の懸念であるらしい。案じてゐる。

一、森下よりの金にて品々購入済みのことな

らん。吉左太を待つ。今朝十三日夜付けのお前の第一信着。無銭旅行になつ

なく無事帰郷、万事円満とあつて安

堵の胸をさすつた。廿五日の島行きに間に合ふやう着々準備あれ。但し余り無理

して健康を害ふ勿れ。自愛第一と知れ。

一、大宮の公園を思ふ。東山の二階、入浴、

コスモスの花、また返りて大宮の公園、

氷川神社を思ふ。全く夢のやうだつたなあ。

(粹外)

ジミイは下手なカメラを振り廻してゐる。

俺も犠牲者の一人に数えられるであらう。

結果を持つて行つて見せる。

一、俺が變つたのは父母ともに驚いてゐる。みなこれをお前の感化と看破して、父は無限

の感謝と尊敬をお前へ対して持つてゐる。

自らの力を信じ、和子、自負してよからう。

一、鮭、鮭の子、届いたか。母と二人で荷作りし、

母が荷札を書き、俺が自ら遠路を出し

に行つたものだ。よろしく試食あれ。

一、古新聞紙中に発見した俺幼時の面影、

お前には一種感慨無量懐しいものである

と信ずる。嘗つては玲瓏玉の如き男子か、呵々。

(粹外)

お前の能筆に父も母も感服してゐる。

俺は大いに肩身が広い。が、顧みて情なくもなる。

うんと書道とやらにいそしましうかしら——。如何？

一、五月はよくない月とのこと、四月になつたら早々

といふのが母の意見、吾ら元よりこの心

組みであつた。偶然の一致といはんか。



一、俺の身体は大分いゝやうに思ふ。本復を

期して益々養生を怠らぬ。日ならず

して赫顔をもつて対面し得るであらう。

毎日、裏の庭で日光浴をしてゐるから。

一、幕末の国学者、賀茂真淵の門人、香取

魚彦の家ではないかと父が興がつてゐる。

魚彦は千葉の人である。或ひは一族か。

(粹外)

骨ばかりだつたジミイが鬼のようになつてゐ

る。吉川といふ医師のおかげだ。その人を待つてゐる。

一、東京日々の原始林に『長谷川淑夫氏の

嫌ひなものが三つある。アメリカにラヂオに蓄

音機、ところが子息がアメリカ帰りとな

るから何といふかしら——云々』の記事

を見たか。「ばか」にしてゐる、俺こそ——お前

の助けによつて——日本のこゝろの奥に分け

入らうとしてゐるものではないか。咄！

一、会つて話しの出来る日を指折り数へて楽

しみにしてゐる。色々いふべきこと、きくべき

ことがあるのだが、みな面接の折としやう。

(粹外)

今月の廿日が心配になる。上野で会へばそ

れを第一に聞くに相違ない。あるだらうとは思ふが。

一、二人のことについては、俺の予期した通り、二人の

思ふまゝに父母を説いた。といふより父

母の思つてゐたことが二人の考へと全く一致

したのだ。何から何まで実に祝福されて

ゐる。感謝してくれ。たゞこの上は事の

成否は一に懸つて田端の長兄の首の振り

やう如何にある。和子も予め力を致

しておいて万遺漏なきを期すとしやう。

一、日夜、北方の家を脱して心は遠く市川の空に飛

んでゐる。へんな言草だが事実だから仕

(粹外)

香取弘堂の名は父の知るところ、母の父

も勝海舟、副島種臣等と往来した書家

であつたと聞く。快心々々。

29 香取和子↓長谷川海太郎／10月14日 夜

方がない。まことの到るところ、そこに空間なぞ何らの障害であり得ない。俺は今もお前の存在を俺の左手に感ずる。お前のところへ俺も行つてゐるに相違ない。こゝろは動くものである。こゝろは阻まれない。

(十四日の夜十時半)  
今日の事をおしらせ申上げます。

一、二人の趣味には父母ともに羨しがつてゐる。その一致に驚いてゐる。趣味の洗練、これが大事だ。二人でしつかり勉強するとしやう。

一、凡てのことを厳命に口留めした。父母は勿論胸に秘めてゐる。さあ、もう遅い。俺は寝る。

(粹外)

伊豆峰さんといふのを思出すと何だか笑がこぼれさうだ。早く顔を見たい。見せたい。もうあと六日！ 待つてゐてくれ。

何しろきのふの今日ですからさすがにまたけふ東京へ行くといふのも気がとがめるやうな気がして何と云ひ出したものかと考へてゐましたら姉が赤ちやんのおふとんのきれを買つて来てもらひ度いと云ひ出しましたのでこれは幸と早速出かけました。ついでに小石川のお友だちのところへ行つてくるから少しをそくなるかもしれないと申しましたら兄が押上から早稲田行が出て両国から行くよりこの方が早いからやつぱり電車で行つた方が便利だと云ふ事になり、押上から早稲田行きにのり

春日町でのりかへて八千代町で下り、お菓子屋の横町を教へて頂い、たとほりにまゐりましたらまちかはらずに博文館に出ました。入口で何だかきまりがわるくなつてしまひましたが

勇気をふるつて入つて、事務員にあれを渡しましたらまもなく

(読売) そつくりの森下氏があらはれ

「長谷川さんでいらつしやいますか、私、森下です、どうぞよろしく」

といやに真面目くさつて、真赤になつてばつたのやうなおじぎをしてゐる私をちろりと見ながら一寸おまち下さいと云つて奥の方に入つていらつしやいました。三十分あまりも応接室でぼかんと待たされもちもぢしてゐましたらやがて森下氏が再びあらはれて袋を出して

名を書けとの事ですからこれも死んだ氣になつて森下氏がぢつと見てゐる前で署名して中の御金をうけとりました。

「東山温泉つていふのはいゝ温泉ですか」と始まつたので大事に

到らぬうち引ひ上げるのが一番と下をむいて笑ひながら何にも云はずに

さつさとお金と封入の森下氏からの手紙とをふくさに入れて出てまゐりました。門を出たらほつとしました。

電車道へ出るまでのせまいごちやごちやした道を歩きながら「今かうして手にもつてゐるお金はいまゝのお金とは全く別な尊いお金だとおもつたらこれをむざむざと使つてしまふのが如何にも勿体なくなり、何だか眼の中が熱くなつて来ました。

それでも停留場まで来ましたら

これで自分のほしい物を買って頂けると

思ったら急にうれしくなつて丁度

日比谷行のが来ましたらそれにのつて

大手でのりかへて白木屋の前で下り

ました。第一にもみじをさがし出さ

うとあれから三越まで両側を

きよろきよろタドポールの打色を

ますく発揮して歩きましたが

そんな店は一軒もありません。

もう一度三越前から引き返して

今度はとろく反対方へ銀座まで行きましたが

どうしても見つかりません。それでも見落

しかと思つてさらにもう一度銀座から

三越まで引き返しましたがどうしても

ありません。それらしい店へは一軒

一軒入つてきゝましたがどこでも

知らないつて云ふんですもの。失望して

もう足が痛くなつてしまひました

から仕方なく三越へ入つてグリーン

の帯をさがしましたがもう売れ

てしまつてありませんでしたが店員が

二三日うちに荷をあけるから出て

くるかもしれないからまた来て下さい

との事。これはいくらか望みが

ありさうです。それからおふとんの

きれをあつちこつちさがして買つて

今度は一番下へ行つて函館へ

御送りするものをさがしましたが

何しろ今日はどうしたわけか

大変な人ごみでとても私ひとり

さわいでもなかく買へさうもないので

もう一度二階へ上つて玉江さんの

ものをさがしてもう一度下へまゐり、

やつとの事でのりと甘納豆とを

求めました、地下室で小包にたの

み明朝早く發送する事になつて  
をりますからそのうちとゞく事と  
存じます。何しろ遠方だから

よほど用心しなければいけないとか  
云つて大きな木箱につめてゐる

やうでした、送料だけ一円四十五錢  
ですつて、中味より木箱の方がよつぽど  
重そうです。あけてごらんになつて

びつくりなさらぬやうに。

玉江さんのは丁度いゝのがなくて  
随分さがしました、お氣に入ら

ないかもしれせんけど、今度何れ

「晴れてから」いゝものをさし上げますから  
今度はこれでゆるして頂きます、

のりが一番上等。甘納豆は栄太楼  
のですからきつと甘いでせうとおもひ  
ます。早く／＼とゞくやうにとおも

つてをります。

かへりに柳屋でこの間買忘れてゐた

銀杏返しの「お髪たて」と帯どめ

とを買ひ、銀座で友禅のひも二つと

半襟とを買ひました。みんな可愛い

氣に入つたのですけれどこまこま

した物でかなりお金を使つてしま

つてあなたに叱られはしないかと心配

してをります。

それから、例の「パリーの園」を買ひに

上野にまゐりましたらまだ売

れずにのこつてゐました、手にとつて

見ましたらかガラスで見たよりよつぽど

ようございました、地もこの間のより

上等で十四円八十錢。それから

電車通へ出ようと二三軒

歩いて来て一寸道側の呉服屋

を何気なく見ましたら、ガラスの中に

それはそれは美しい帯がかけて

ありましたの。地色はグリーンで

もみぢと同じやうな感じですね

あれよりもつともつと日本趣味で

花ぐるまに秋草の模様

金糸のぬひが入つてゐて如何にも

昔の錦絵のやうですの、たまら

なく心ひかれてふらふらと店の中

に入つて、出させて手にとつて見ました

地もなか／＼よくこれならどんな

いゝ着物の上にも申分ないとおもは

れましたけど何しろ二十円も出る

のでせう。一寸考へてしまひましたけど

そしてあなたがおかへりになつてから

一緒に見て頂いてからにしようとおも

ひましたけどもしかまた

なくなつてしまつたらつまらないと思

つて思ひ切つて買つてしまひました。

ね、いゝでせう？

何しろよつほど歩きまわつたと

見えて店を出て電車通りへ出

ましたらもう日がくれかけて来

ましたので大急ぎにかへつてまゐり

ました。家にかへりましたら

丁度七時。

御夕飯をすませ、お話をして今自分

の部屋にかへつたところ。けふ買

つて頂いたものを一つ一つ出してみました。

みんないゝものばかり。早く早く

母にみせてよろこばせ度いとは、だ、

からの新聞紙の小包をまつてをります。

もつとこまかくおしらせしたいのですけど

今日は何しろひとりぼつちで歩き

まはりましたのでせう。つかれてつかれて

頭がぐらぐらしてをりますから

いづれお目にかゝつてから申上げます。

のんきな手紙だなんてお叱りに

ならないでね。これでもふらふら

しながら一生懸命書きましたのよ。  
また二三日うちに三越にグリーン  
の帯をさがしにまゐります、  
のこりのお金で『パリー』の裏だの  
裾まわしだのを買つて頂戴ね、  
一緒にさがしてまゐります、

あなたはけふはもうとつくにおつき  
になりましたでせうね、三等なんかで  
さぞさぞお疲れになりましたでせうと  
存じます、昨夜は幾度も  
幾度も目をあけて自分ばかり  
温いおふとんの中に眠つてゐる時  
申訳ないやうな気がして心の中で  
おわびをしてをりました。  
もう何日たつたらお目にかゝれるのでせう、  
どうぞ御からだにお気おつけに  
なつてね。  
御手紙ばかり待つてをります。

ではもう失礼いたします、また  
明日書きますから。  
森下さんの御手紙封入いたします。

十四日夜十一時三十分

※同封の手紙なし

30 香取和子↓長谷川海太郎／10月15日 午後

けふはよく晴れてゐます、丁度  
大宮を散歩した午後のやうに。  
今お昼御飯をすませてぼんやり  
外を眺めてゐましたらあの日の  
事を思ひ出してたまらなくなつて  
仕舞ひました。  
いまひと目あなたに御会ひ出  
来たら！ 泣いても泣いても  
泣き足りないやうな寂しい心もち。

こんな思ひをする位ならどんなにしても  
あなたとお別れしなければよかつた  
と思ひます。何をしても何を

見てもたゞあなたの事ばかり、  
仕事をしやうと思つても何も手に

つきません。東京にいらつしやるの  
だつたらどんな事をしてもすぐ  
出かけてゆくのですけど。

御便りばかり待つてをります、  
二十二日までにはまだ七日もありますのね。  
何だか気がちがひさう。

十五日午後

31 長谷川海太郎↓香取和子／10月17日 夕

十七日夕

十四日夜のと十五日午後のと今  
日朝夕にわかれて入手した。

『大事な方からお手紙ですよ。』

母がかういつて誰の手にも渡さず  
自身で持つて来てくれる。俺は  
一人になつて座を正して封を切る。  
いつもかうである。

確固たる信念をもつて、たゞ  
日のたつのを早かれとだけ祈  
り俺の帰りを待つてゐてくれ。

よき書物に教へられ深く思索し  
いろいろの場合におけるお前の可  
愛い姿を思ひ浮べては俺とて  
も同じ思ひである。これをして  
二人の間に最初のそして最後の  
別住たらしめよ。もう決して  
決して二人はて、こでも離れぬであらう。

例によつて要件を別記する。

一、紅葉の帯がないといふので非  
観して読んで行くうちにそれ  
以上のを発見したとあつて思は



ず歓呼の声をあげた。さうだ、これはいゝ、ほしいなと思つたら金さへあらば即座に買ふべきである。いゝのがあつて大いに安心した。巴里園も手に入れたよし実に嬉しい。早くその帯や着物を見たいものだ。もう新聞紙の小包も届いたことであらう。

一、森下は御覧の通り気品のない野人である。そのかわり話はよくわかる男、要するに世に所謂編集屋の好典型のみ。

一、贈物はまだ来ないが、一同喜ぶ

ことであらう。一両日中には届く。

多謝。大変な骨折だつたらう。

一、母のはなし、元禄、又は桃山の時代こそ日本の女の生れまほしき世だつたさうな。燕脂に

未来派の模様をおいてグリーン

の帯をしめると実にいゝ好み

だなぞといつてゐた。俺は黙つて

笑つてゐた。さうかと思ふと、日

本髪に黒縹子の襟もいゝ、この頃

の若い人にはかう趣味は解らないだ

らうなんて威張つてゐた。その

うち大いにお前の趣味を説明

して顔色なからしむるつもりである。

一、森下へ原稿送つた。安心しろ。

一、気を静めて日一日を数へてゐ

てくれ。もうあと五日だ。いゝか。

和子へ

海太郎

32 香取和子↓長谷川海太郎／10月16日 午後

十六日午後、

もしかすると今日は御手紙が

頂けるかもしれないと郵便の時間を

待ちわびましたが 二度ともとうく  
駄目でした。

おわかれしてけふで四日目、その後は  
どうなすつたかと そればかり

御案じしてをります。

まい日一日に幾度も幾度も子供

のやうに指で日を数へてをります。

二十二日までにまだ七日、二十五日までに  
もう十日！

ちつとしてゐると苦しくつてたまらなく

なりますからけふはめちやくちやに

働きました。いまあなたの御座

ぶとんをこしらへてをります。

今日はくもりがちでもう日がくれ

かけてまゐりました、夜が来て、一日

お目にかゝかる日が近づくのだとおもふと

うれしうございます。

ではあしたまで

さよなら

33 長谷川海太郎↓香取和子／10月18日 夕

十八日、夕、

十六日夕付けの手紙見た。

この時までまだ俺の手紙を

一本も披見せぬとは意外

である と思つたが、日を繰

つて見ればまことに無理からぬ。

当地着が十四日正午、帰宅

して入浴早々母に捉まり午

後中談じて安着を報ず

る第一信を投函したのは夜

に入つてからであつた。何分に

も海を挟んでゐるので連絡

船の発着が日二回のところ

から郵便物は大きつぱに朝

夕二回の送りだしといふこと

なる。従つて正午以後投函に

係る郵便物は一切翌朝

の部として集められる。十四日

夕の俺の手紙も十五日朝になつて始めて津軽海峡を渡

つたものであらう。この手紙が

届く頃には俺の前の手紙も

いろいろ行つたことであらうし、

今日から数へても顔を見る

まであと四日、お前も幾分

の安心を持ちつあることと信

ずる。無理ではあらうが

休々たる心事に帰来を待

つてゐてくれ。苦しからうが頼む。

身体の具合が非常にいゝ

からよろこんでくれ。バタと筋

子を菓のつもりで撰つてゐる。

食事のたびに大宮での楽しか

つた二日間を思ふ。食卓で

何を言はれても返事をしないで

ゐることがある。ぼんやりしてゐるのだ。

今日は雨である。終日机

に向つてお前のことを考へ

ながら新井白石の藩

翰譜を読んだ。両三日来

醉古堂劍掃に眼を通してみ

たが、東洋のさびへ益く帰

復しつつかある俺とお前の二

人のこゝろをこの上なくなつか

しく思ふた。

分秒といへどもお前が念頭

を去ることはない。今度会つて

から如何にしてお前を大切にす

べきかといふ諸々の決心とよき

計画とで貧しき俺も今は

朱門の主の如く富んでゐる。

この手紙の届くのは廿一日、その次の日には面接出来る。さよなら。

和子へ

海太郎

34 香取和子↓長谷川海太郎／10月17日 午前

今日こそはきつと御手紙が頂ける  
でせうと朝目がさめてから郵便の  
時間ばかり気になつて何も手につ  
きませんでした。 十時が打ち  
ましたらもうたまらなくなつて玄関に  
こしかけてしばらく待つてみましたら  
只今とゞきました。どんなに  
うれしう御座いましたでせう、まつくらな  
世界が急にあかるくなつたやうな  
心持ちが致しました。  
御無事におつきになりましたさうで  
安心いたしました、もうお疲れは  
おなほりになりました？ 私たちの  
事も大丈夫ですつて？ 早く御かへりに  
なつてよく御話して頂戴ね。待つて

みると日のたつのがをそくつてもう  
ぢれつたくなつてしまいました。  
けふはこちらは雨ふり、なかくく  
晴れさうもなく、なほさら気が  
めいつてしまひます。少し小降りに  
なつたらこれを出してまゐります。  
十七日午前十一時 さよなら

35 香取和子↓長谷川海太郎／10月17日 午後

十七日午後四時  
玄関で大きなこえがしましたので  
何事かと、あわてゝたつて行つてみしたら  
あなたからの鮭がとゞきました。  
随分早くまゐりましたのね。  
荷札は御母上様の御手でせう？  
さうおもひましたらうれしくつて涙が  
出てどうしてもとまらないですもの。  
早速自分でといて拝見致しました。

母はじめ一同大よろこび、厚く御礼申上げます。どんなにか御手数でしたのでせうと勿体なく存じます。一つは東京のうちへ送らうと相談を致してをります。

私のはまだとゞきませんでせう？

けうはあなたのと自分の座ぶとんをすつかりこしらへ上げました。自分のをしいてみてあなたのをそのそばにもつて来てひとりできまりがわるくなりお部屋の中を二三度歩きまわつてごまかしました。二十二日はきつときつと御かへりになつて頂戴ね。そればつかりを望みにこの頃はやつと生きてをります。

雨がますますひどくなつてまありました。せめて御天気でもよければ、とうら

めしいやうな気持ちで幾度もガラスまどから外を眺めてをります。

明日の御手紙をたのしみにしてをります。

さよなら

36 長谷川海太郎↓香取和子／10月19日 午後

十九日午後 海太郎

父母とは凡て話を終り、万事了解を得、大いなる祝福のうちに小さな具体的の相談まで吾らの考へ通りになつた。委細面談。

今日午後三時から小包届いた。玉江は

大よろこびである。甘納豆、海苔は共に父母の好物、直接礼状を出すべきであるが、先づ俺より宜しく申してくれとのこと、こゝに取次ぐ。この手紙が行くのが廿二日、その日には会ふことであるが、尚前々より申す如く、心身に留意

して一に帰来を待つてゐてくれ。あと三日だ。

毎日散歩と日向ぼつこに日を送つてゐる。書見も身にしみない。何をしてもお前のことばかり考へてゐる。お前は俺の半分、お前あつての俺なのだ。今日一日お前の手紙が来ない。何うしたのであらうと案じてゐる。単に郵便が遅れたのであらう。今日までにはお母様にも帯や反物をお眼にかけたことであらうが、何と仰言つたかしら——。お笑ひになつたらう。一刻々々あふ時が近づく。それがせめてもの慰めだ。では——。

37 長谷川海太郎↓香取和子(葉書) / 10月21日

其後は如何ですか。私は変りもなく、降りつく雨をうらんでくらししてゐます。新聞によると東京方面も雨が多いとのことですが、さぞお困りでせう。これから段々寒くなります。お身体お大事に

時々御様子お知らせ下さい。

38 香取和子↓長谷川海太郎 / 10月18日 午後

十八日午後

御手紙二つとおはがき只今いたゞきました。幾度も幾度もくり返して拝見致しました。小包いろいろお手数をおかけして相済みませんでした。鉄道便よりはずつとおくれると見えてまだとどきません。たのしみに待つてをります。私たちの事、何もかもよいやうになりましたさうでこんなうれい事は御在いません。本当に安心致しました。早くお目にかかつてくわしいお話うかがふのをたのしみにしてをります。今日は十八日、御約束通りこれををしまいの手紙に致します。

二十二日には「一時預け」のところいきつと御待ちしてをります。

どんなにうれしいでせう。もう今からどきどきしてをります。

私の方ではけふも相変らず雨ふり。

外へ出ることも出来ず一日中、あなたの

事を考へながらお仕事をしました

あともう四日！

早く早くかへって来て頂戴。

ではお目にかかるまで さよなら

39 長谷川海太郎↓香取和子（電報）／10月23日

午後5時42分

ベウキイカガ

※偽名 アイで発信

40 香取和子↓長谷川海太郎（電報）／10月24日

午前11時30分

カラダワルイ二七ヒ

ニノバシテタノムイ

サイフミ

41 長谷川海太郎↓香取和子／10月24日 夕

和子へ 廿四日夕

一体何うしたのだ、身体が悪いとあるが

胃腸が痛むのかそれとも他の方なのか

ともかく何うしたらいいか気が違ひさうだ。

あの晩の寝冷えかしら？ 或ひは俺に罪

のあることなのかしら？ あの日別れて直ぐあの

薬を渡しておかなかつたことに気がついて実は気が

が気でなかつた。送らうかとも思つたが、別に大

したことはないからとそのままにして、アイ

——宝田氏夫人の名と記憶してある——といふ名で

電報だけ打つておいた。見たことであらう。

今直ぐ市川へ行きたいと思ふ。お母さん、お

兄さんもゐらつしやることだから看病は行き届いてゐるだらうが、俺は一体何うしてこの二日間をすこせばいゝのだ？早く早く直つてくれ。

何処が痛む？ おなかか？ 下の方か？ 熱はあるか？ あゝ、飛んで行つて抱いてやりたい。何でもしてよくしてやりたい。同じ家にゐられるお母さんや兄さまが憎らしい。俺一人の手で世話して、このからだであつたため寝かしてやりたい。

一体何処が痛むのか知らせてくれ。どこが何

(粹外 上) 何を書いてゐるのか少しもわからない。よくなつ

たら電報を打

つてくれ。悪くても電報を打つてくれ。看病に行く。

(粹外 左)

この通りめちやく々な手紙だ。判読してくれ。

(粹外 下)

何もない部屋でひとりぼつねんとして俺はお前のことを考へてゐる。

かわいさうだと思つてくれ。そして心配せずに直

つてくれ。廿七日にぜひ行かうね。

う痛むのだ？ もしうんと悪いやうなら一切をお母様に申上げて俺を呼んでくれ。俺は直ぐにとんでゆく。よくなつたらよくなつたで電報を打つてくれ。その電報が来るまで俺は部屋中を歩き廻つてゐる。

二十七日には是非よくなつて行くやうにしよう。この船は早いと見えて翌朝五時に元村へ着く。心配せずにそれまでに全快してくれ。もしもほんとに悪ければ俺を呼びよせてくれ。色々なる情等を煩慮してゐべき場合でない。

午後一時三三分に受信の電報を今女中が持つて来た。帳場を呼びつけて大いに叱つてやつた。

この後は時々階下へ行つて自分で電報の有無をしらべることにする。今八時だ。これ

から投函する。島行きのものはすつかりまとめて、その他の衣具道具一切函館へ出して終つた。

二十七日まで下宿の夜着に寝る。とも



かく早く早く全快してくれ。二十七日の朝九時に発着所であふ。その前によくなつたと電報を打ってくれ。もしわるければ俺が看病に行くから電報を打ってくれ。ともかく、一刻も早く全快するやうに祈つてゐる。海太郎

(粹外 上)

和子、俺達は何うしてかう離れてゐなければならぬのか、何うして俺

はお前の看病が出来ないのか、それを教へてくれ。

(粹外 下)

死ぬ時は一しよだよ。和子と俺とは一しよに死ぬんだ。忘れないでおくれ。

42 香取和子↓長谷川海太郎(封緘葉書)／10月24

日 午前

二十四日午前十一時

電報昨夜八時にいただきました。

昨日途中でひどく痛み

出しやつと家へかへりましたが熱がひどく昨夜中苦しみました。昨夜医者によぶといふのを無理にことわつて今朝電報をうつ

たりこれを出さうと思つて医者へ行くことにして自分で出かけてまゐりました。

医者は大した事はないとの事ですが一両日静

かにしてゐなければいけないようですから明日は

とても駄目です。二十七日にどうぞのばして下さい。

母ハ二十七日には上京致しませんからひとりで午後一時頃までにまゐります。

変りごとがあり次第

電報でおしらせいたします。

(郵便局で)

43 長谷川海太郎↓香取和子／10月25日 午前

廿五日、午前十一時、

手紙——封緘葉書見た。帰りに苦し

み出したとはさぞ情なかつたことであらう。

何辺が痛むのかよく解らないが、熱があるとは心配である。傍にみれば何ともして

看病するのだが、今はお母さまたちに代

理をお願ひして自分は離れてやきもき

するより仕様がな。俺も病気になるさうだ。

例の吉川氏が上京中である。もしうんと

悪ければ、氏の居処を電報で函館へ聞き合

せて、何とかしてうまくそつちへ送る。全

快か何うかもう一ぺん電報を打つてくれ。

医者は大したことはないといったとのこと、先づ

安心した。廿七日には正午までは俺は発

着所へ行つてゐる。充分用心して暖く着

込んで出て来てくれ。ともかくその前にも

う一度電報をうつことだ。もし電報が来

なければ廿七日に行けるものとして俺は仕度

くして出かける。ともかく静かに養生してみてく

れ。大事の前だ。心配せずに全快頼む。

和子へ

海太郎

44 香取和子↓長谷川海太郎(電報)／10月26日

午前9時50分

ゼンカイアスカナラズユク

発行日  
編集・発行

平成25年3月31日

鎌倉文学館指定管理者

鎌倉市芸術文化振興財団・

国際ビルサービス共同事業体

鎌倉文学館

鎌倉市長谷 1・5・3